

高雄日本人学校の風

校長 高口 和治

5月30日(月)

青森に帰国した三上教諭から電話がありました。「桃源国中からの義援金について、うちの校長から話があるということですので、お電話かわります」ということでした。三上先生が勤める校長先生は「桃源国中からの義援金ありがとうございます。台湾の人々の気持が伝わってきます。それに、三上がそのような仕事をしてきたかと思うと本当にありがとうございます。これからも、国際理解教育の一環として取り組んでいきたいと思っておりますので、相手様にも、よろしくお伝えください。」とのことでした。実際のお金は、青森県八戸市の教育委員会に振り込まれ、一番被害が多かった学校へお渡しするという事に校長会と教育委員会で話し合ったそうです。三上先生も元気そうでしたし、高雄日本人学校が続けてきたことが、このような大変な時に人のために役立ったということは、大きな評価だと考えます。

5月3日(火)

5時間目、6時間目に獅子舞の鑑賞会および体験がありました。すごい迫力でした。まぶたが動いてちょっとユーモラス。それに、中に入る2人のいきがぴったりで、私は後ろの人に注目していました。ズーと、腰を90度に折り続け、ときには、前の人を持ち上げ、さらに、しっぽも振ってみせる。最後には、みんなの記念撮影にまでつきあい、ズーっと、獅子が横たわっているかっこうをしてきてくれました。

6月1日(水)

朝からすごい雨でした。濡れると風邪を引いてしまうかもしれません。体育の後もそうですが、着替えが必要と予想される場合は、準備させてください。(その時、お子さんにもよりますが、準備してやる、毎回声をかける、声をかけてそのあと見守るなど成長に合わせての声かけをお願いします)感想ですが、日本にいるときより家族の密度が濃いが家庭が多いと思います。必要以上に、先回りをしていることがあるかもしれません。

小学部は端午節集会をやっていました。芸達者な子どもたちがわかりやすく演じ、クイズで理解を深めるようやっていました。

6月2日(木)

小学部5年生と、宿泊学習にでかけます。三地門の陳俄安さんからもお話を聞いてきます。また、宿泊という経験は集団をきっと高めることにつながります。雨が心配ですが、行ってきます。

本を紹介します

『家庭力 子どもの学力向上と幸せのために親ができること』

陰山英男 著 主婦と生活社

p 48 人間の能力がいちばん発揮できるのは、朝。

なぜ、朝がいいか。まず、第1にしっかり眠った直後なので、脳の働きがもっともいい。

・・・夜に比べれば、知的な活動がやりやすい条件が整っている。

朝いちばんでやってほしいのは、音読だ。5分がいい。姿勢を正し、腹からしっかり声をだす。声をだすということは、朝でなくとも人間を元気にする。

p 51 勉強でわからないことがあると、子どもは困る。低学年の間は、宿題はリビングでやるといい。

リビングにいたがるということは、いっしょにいたいからである。低学年の子どもが宿題をするとき、子どもは不安なのである。わからないことがあると宿題が進まない。低学年だから自分で調べるということもできない。だれかに頼りたいという気持ちがつよいのだ。

p 74 遠くへ歩いたら、距離を調べよう。料理のときは、重さを調べよう。生活のなかで数値の単位を実感させ、数量の感覚をみがこう。

そこで、学校で単位を学習したら、できれば生活の中でそれを自覚させよう。

たとえば、1キロメートルを学習したら、1キロメートルを歩いてみよう。単位の学習にいいのは、料理の手伝いだ。目盛りの読みかたも、意外に子どもはつまずきやすい、2ごとに目盛りが打ってあったり5ごとに打ってあったりする。これがわからない。しかし、心配することはない。わからない理由は、使ったことがないからだ。

日常からこうしたことを家庭でやっている子は、簡単に理解する。だが、それをやっていない子は理解できない。

高学年になると、速さの学習があるが、これもなかなかやっかいだ。自動車などに乗ったとき、いっしょにスピードメーターを読むなどして、体感してみるといい。子どもたちがどんな学習をするか知っておくと、生活の中で学習させられることは数多くある。

(高口)

社会科見学後のミニ発表会を見てから懇談会をしました。その席で、「時計の勉強したあとで、家でも生活の中で使うようにしているんです。」私も、ぜひ、そのようにしてください。とお話をして、上の文章をお見せしました。まさに、この本に書いてあることを実践しているご家庭があります。

社会的に言うと、「地図を家の壁に貼り、どこか行ったり、テレビで出る度に、その地図で家族で話をする。」のが大事。私は、実践していました。そうすると、子どもは空間の広がりを実感していきます。学校も実感させるよう努力はしています。ぜひ、ご家庭でもよろしくお願ひします。